

会議記録

- 1 会議名 高松市離島航路確保維持改善協議会
- 2 開催日時 令和8年1月19日（月）14：30～15：35
- 3 開催場所 高松市防災合同庁舎（危機管理センター） 5階 501会議室
- 4 議題 男木～高松航路改善計画（案）について
- 5 出席 岡田会長、岡副会長（代理 小野氏）、濱委員、福井委員、
出海委員、山下委員、長谷山委員、藤川委員、吉峰委員、
岩倉委員
- 6 報道機関 3社
- 7 担当課及び連絡先 交通政策課 087-839-2138
- 8 協議経過

《委員紹介》

会長挨拶

《議事1 男木～高松航路改善計画（案）について》

（事務局）

資料-1に基づき、男木～高松航路改善計画（案）について説明。

（会長）

船員不足等の航路の現状について意見はあるか。

（委員）

海運業界のみならず、社会全体人員不足であり、厳しい状況である。弊社も現在、船員1名が欠員の状態であるが、要員の確保にグループ全体で対応している。

新船の大きさは、港の関係、物流の関係から、現在の「めおん」と同等の規模を想定している。ただし、維持管理費については抑えるよう考慮していきたい。また、島民のみならず、多くの観光客が島を訪れていることから、安全性に配慮し、観光客にも楽しんでもらえる船を建造したい。バリアフリールームと合わせて、子供たちが自由に使える学習スペースのようなものも想定している。客室は「めおん」と同程度の大きさで、立ち席を増やす方向で最大乗船人員を増やしたい。

夏期ダイヤは、現在、8月1日から8月20日まで、高松～女木間を6便運航している。新型コロナウイルスの影響により海水浴場を一時閉鎖してから利用者が減っている。特にお盆以降の利用が少ない。夏期ダイヤの便数を減らし（6便→4便）、その分、男木島まで運航を伸ばしてはどうか。現状の運航距離は1,504km、8月1日から8月15日までの男木島まで航路を伸ばした場合は1,212kmになり、運航経費は抑えることができ、観光客には女木島・男木島の両方に来てもらうことができる。承認いただけるようであれば、次の6月の協議会で提案し、令和9年8月からの運航を考えている。

(委員)

乗組員の確保が最重要課題ではないか。船員から、「高松の家に帰りたい」との声を聞いたが、夜間係船を男木泊まりでなく、高松泊まりに運航計画を変えられないか。

(委員)

次の船も現状と同程度の船で計画を進めてほしい。

広島宮島は入島税をとっていると聞いたが、本航路でも同じような考え方を導入できないか。

島民からは、「バリアフリーになって船に乗りやすくなった」との声はよく聞いている。男木島も女木島も子供たちが高松に通学しているため、新船に子供たちの学習スペースを設けていただけるといのは非常にありがたい。

(委員)

島民の方の利便性を考えると、高松泊まりは難しい。全国の離島航路も島が起点となっている。高松泊まりにするのは、船員の就業時間の問題や費用の面などで厳しい面もあり、島泊まりでも船員を確保している会社はある。長期経営をするためには、島民重視の目線でないと続かない。

(事務局)

宮島とは状況が違うため、入島税は難しい。航路収支の改善も念頭におき、島民の負担に配慮しながら料金見直しも検討したい。

(委員)

夏期ダイヤの変更は次の6月の協議会で再度議論・検討をし、取り組んで欲しい。特に島民の方の意見が大事であるため、意見集約を行ってほしい。

(委員)

運航ダイヤ・運賃は本来、届出制であるが、離島航路で補助をいただいているため、皆さんの意見を聞きながら進めたい。

船員不足の問題について、島にゆかりのある人たちに船員・陸上員になってもらって、島民とのコミュニケーションを図ることで、船員確保・島の活性化に繋げていくことが理想的だと思う。

今回は次船建造までのインターバルが短いため、2船の減価償却が重なる期間、経常赤字が大きくなる。

今の「めおん」が好評なので、次の船も女木島・男木島の宣伝になるような船を考えたい。

(委員)

「めおん」のデザインは人気で、次の船はどのようなデザインになるのか、非常に楽しみである。また、船の中で小学生が机で勉強できることなども全国にPRできればよいのではないかと。

(委員)

サンポート地区では国際会議等がよく開催されている。例えば、コンベンション後のイベント等

で船を活用できれば収益も得られて、島の活性化に繋がるのではと考えている。

(委員)

人員確保の問題は陸上交通も含めて喫緊の課題である。公共交通が自動車中心の移動になってから、民間事業者の経営努力だけでは改善が行き届かない部分がある。一方で、公共交通はこれまで民間サービスとして提供され、民間事業者として収益を獲得するのは当然であるという考えがある。しかし、行政の補助でその運行を支えたとしても、民間事業者として、人材確保も含めて将来への投資活動ができる状態になっているかというところではない。高松市として赤字補填はしつつも、民間事業者が投資的活動していくためには、どのような政策を行っていくべきか、国・県とともに考えていきたい。離島航路単体で課題を見るのではなく、公共交通ネットワーク全体としてどのような移動環境をつくっていくのかというのが大事なポイントである。公共交通全体のネットワークの中に離島航路を含め、全体として考えていきたい。

(委員)

企画切符による女木島・男木島の宣伝や、予備船のチャーターで収益を確保するなど経営努力をしている。

(委員)

「めおん」を建造する前は黒字の時もあった。離島航路ではあるが、昨今の燃料費・人件費高騰を加味した料金設定、経常赤字を減らす方向での運賃のあり方も含めて検討を進めたい。

(委員)

移住・定住やイベントなど行政の皆様とも協力していきたい。

また、北海道の観光船の事故を受け、国のルールが厳しくなり、安全重視の基調が強くなり、昨年は当航路で荒天等により約40便欠航しているが、就航率は99%である。欠航が予想される場合は事前に島民の皆様にお知らせする方法も検討したい。島民の皆様にもご理解いただきたい。

(会長)

計画案については了承いただき、本計画に基づき新船建造に向けた手続きを進めていきたい。

(一同)

承知した。

《その他》

(会長)

次第3. その他であるが、何かご意見はあるか。

特にご意見がないため、進行を事務局にお返しする。

(事務局)

以上をもって、本日の協議会を終了させていただく。

《閉会》